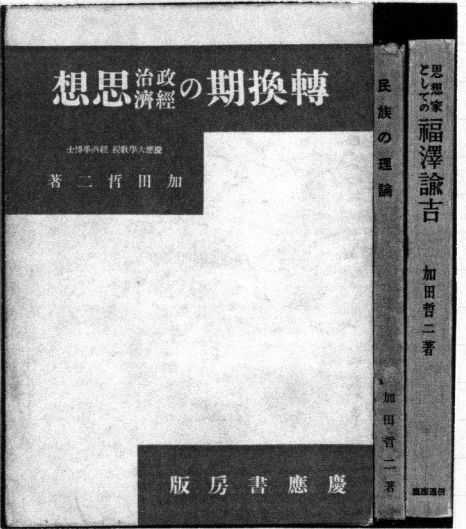


加田哲一（たけぢ）経済學・社會學者、經濟學博士。明治二十八年十一月二十六日東京生れ、昭和二十九年四月二十四日歿（一八九五—一九六六）。本名忠臣。筆名甲野哲一。大正八年慶應義塾大學理財科卒。十五年同大教授、昭和十九年海軍省陽託、戦後日本大學教授、『讀賣新聞』論説委員等を歴任。

著書『ウキリヤム・モリス—藝術的社會思想家としての生涯と思想』（大正十二年四月二十日岩波書店）、『近世社會學成立史』（昭和二年二月十五日岩波書店）、『日本國家社會主義批判（日本フアツシカム論）』（昭和七年十一月二十日春秋社）、『明治初期社會思想の研究』（昭和八年五月十五日春秋社）、『明治初期社會經濟思想史』（昭和十一年八月十日岩波書店）、『人種・民族・戦争』（昭和十二年九月二十七日慶應書房）、『現代の植民政策』（昭和十四年二月十日慶應書房）、『轉換期の政治經濟思想』（昭和十五年一月十七日慶應書房）、『如何にして學ぶべきか—後編讀者と論文の書き方』（昭和十六年四月五日慶應出版社）、『經濟戦争と日米關係』（昭和十七年二月二十日東京銀行集會所「銀行叢書」）、『日本經濟學者の語』（再版・昭和十七年四月五日慶應書房）、『戰力論』（昭和十九年九月十五日帝國出版株式會社）、『民族の理論』（昭和二十一年九月一日岩崎書店）、『思想家福澤諭吉』（昭和二十二年十一月二十五日慶應通信）、『武士の困窮と町人の勃興—商業資本



主義の発展』(昭和二十六年六月)二十台小川書店(等)他、譯書、
エンゲルス著『住宅問題』(昭和四年十一月十五台岩波書店)「岩波文
庫」がある。